

日時・場所	平成 28 年 11 月 30 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 30 高松市医師会館
参加者	受講者 38 名 行政担当者 8 名
内 容	<p>1. 全体説明：在宅医療コーディネーター養成事業について 吉澤委員長</p> <p>2. 情報提供①：在宅医療コーディネーターの役割と業務内容について 大橋委員</p> <p>3. 情報提供②：患者・家族の意思決定支援のポイントとスキルについて 片山委員</p> <p>4. 情報提供③：高松市関連事業と相談窓口について 地域包括ケア推進室 山崎</p> <p>5. 事例検討の実施方法の説明と自己紹介</p>
結 果	<p>1. 在宅医療コーディネーター養成事業について</p> <p>○国における医療・介護連携に係る施策や計画、今後のビジョン</p> <p>○在宅医療・介護連携推進事業について（ア～クの取り組み）</p> <p>○高松市における医療介護連携事業の具体的な取り組み内容</p> <p>2. 情報提供①：在宅医療コーディネーターの役割と業務内容について</p> <p>○在宅医療コーディネーターの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難事例に必要な、意思決定（ACP：価値観や死生観・考え方などをさぐりながら、ケア全体の目標や具体的な治療方法等について早い時期から話し合いをしていくプロセス）に基づいた支援を行う ・ 関係者に医療とケアマネジメントを含めた介護のサポートを行う ・ 医療～介護の架け橋づくりのサポートを行う <p>○病院完結型医療から地域完結型医療に変換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療者は、市民がより良く生活できるように協力していく必要がある <p>3. 情報提供②：患者・家族の意思決定支援のポイントとスキルについて 15 : 55～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調整支援（希望する生活の具現化）⇔意思決定・表明の支援（その人らしく生きる支援）の両輪が必要。課題解決と退院支援がイコールではない。 ・ 在宅医療では、生物学的な生命（受動的）と物語られるいのち（主体的）のバランスが大切。対象を「人として見る」視点が重要となる。 ・ 意思決定支援＝ナラティブの実践。関係者がチームで行う。 ・ 意思決定のタイプ：シェアードディジションモデル（支援者と療養者が話し合い、協働して意思決定する）が効果的。 ・ 支援の場面で求められているのは「対話」と「対話力」 <p>対話力を高めるポイント：①対話する姿勢、②積極的傾聴、③話を聴くときの位置、④ブロッキングと説得に要注意、⑤タッチング</p> <p>4. 情報提供③：高松市関連事業と相談窓口について</p> <p>○高松市における高齢者関連事業及び相談窓口についてパンフレットに沿って説明</p> <p>○新しい総合事業の概要について説明</p> <p>5. 事例検討の実施方法の説明と自己紹介</p> <p>8 グループに分かれて、今後毎回実施する事例検討の進め方のオリエンテーションと自己紹介を行う。</p>

